

第3章 流域の社会状況

3-1 人口

安倍川流域の全域を占める静岡市において、平成12年度国勢調査によると常住人口は約71万人であり、近年は人口が横這い傾向である。世帯数は、昭和40年時点で約13万8千世帯から平成12年時点で約25万5千世帯と35年で約2倍程度の増加であるが、1世帯あたりの平均世帯人員は4.2人から2.8人に減少している。

なお、平成15年4月には、静岡市と清水市が合併した。

表 - 3.1 静岡市の人口及び世帯数の変遷

年度	人口（人）			世帯数（世帯）			一世帯当たり 平均世帯人員	
	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市
昭和40年	367,705	218,559	586,264	87,557	50,530	138,087	4.2	4.3
昭和50年	446,952	243,045	689,997	126,139	66,127	192,266	3.5	3.7
昭和60年	468,362	242,166	710,528	144,899	71,066	215,965	3.2	3.4
平成2年	472,196	241,523	713,719	154,837	75,545	230,382	3.1	3.2
平成7年	474,092	240,174	714,266	165,452	79,997	245,449	2.9	3.0
平成12年	469,695	236,818	706,513	171,496	83,027	254,523	2.7	2.9

出典：「静岡県統計年鑑 静岡県統計協会」
（人口及び世帯数は静岡市と清水市の合計値）

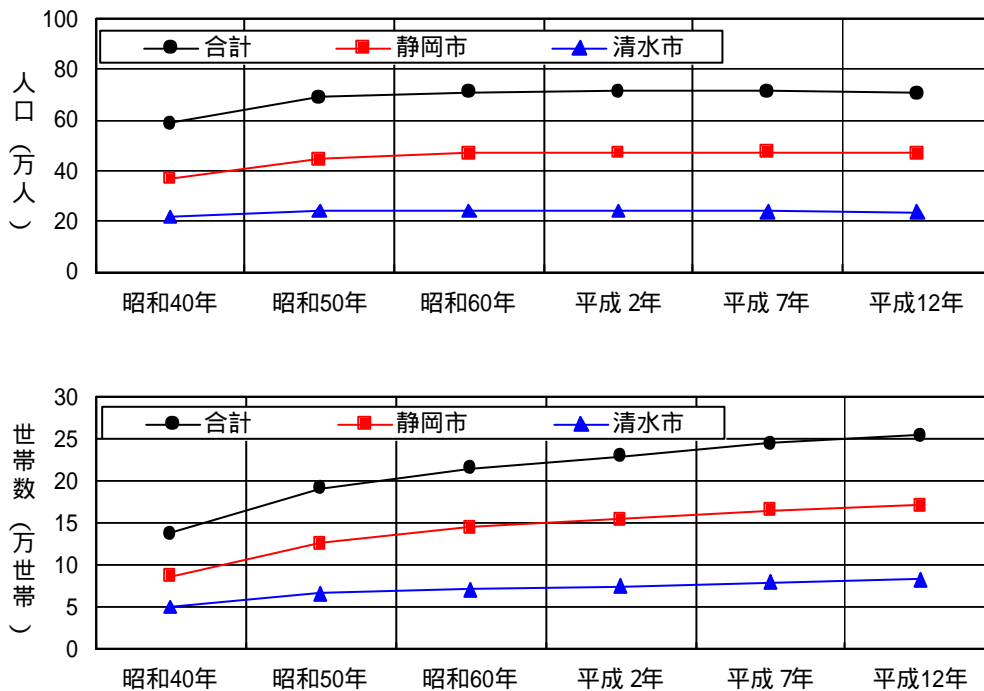


図 - 3.1 静岡市の人口及び世帯数の変遷

3-2 土地利用

安倍川流域は、静岡県中部に位置し、県都静岡市1市に含まれ、流域の土地利用別面積は、山地等が約93%、水田や茶畑等の農地が約3%、宅地等市街地が約4%となっている。

また、静岡市しずおかにおける平成12年の土地利用別面積は、山地とその他併せて約79%、水田・畑地等の農耕地が約13%、宅地が約8%となっている。

表 - 3.2 安倍川流域土地利用別面積表

	流域面積	市街地 (人口集中地区)	農地	山地等
面積 (km ²)	567	20.8	16.1(田 3.1, 畑 13.0)	530.1
割合 (%)	100	4	3	93

(出典：河川現況調査(調査基準年：平成7年度末))

表 - 3.3 静岡市地目別土地利用面積 (単位：km²)

年度	田			畑			山林			宅地			その他		
	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計
昭和50年	21.3	7.4	28.7	47.9	48.4	96.2	581.5	86.4	667.9	30.0	20.4	50.4	12.3	3.4	15.7
昭和60年	16.2	4.1	20.3	46.9	50.0	96.9	545.4	86.1	631.6	33.4	21.6	55.0	13.4	5.8	19.2
平成2年	14.4	3.4	17.8	45.4	48.3	93.8	537.8	86.1	623.9	34.9	24.5	59.3	14.5	4.3	18.8
平成7年	12.8	2.8	15.5	44.1	47.4	91.5	531.3	85.2	616.5	36.2	25.3	61.5	14.4	4.7	19.1
平成12年	11.4	2.2	13.6	42.6	45.5	88.2	523.6	84.6	608.2	37.4	25.6	63.1	14.5	4.9	19.5

出典：「静岡県統計年鑑 静岡県統計協会」
 その他：原野、池沼、その他
 (土地利用面積は静岡市と清水市の合計値)

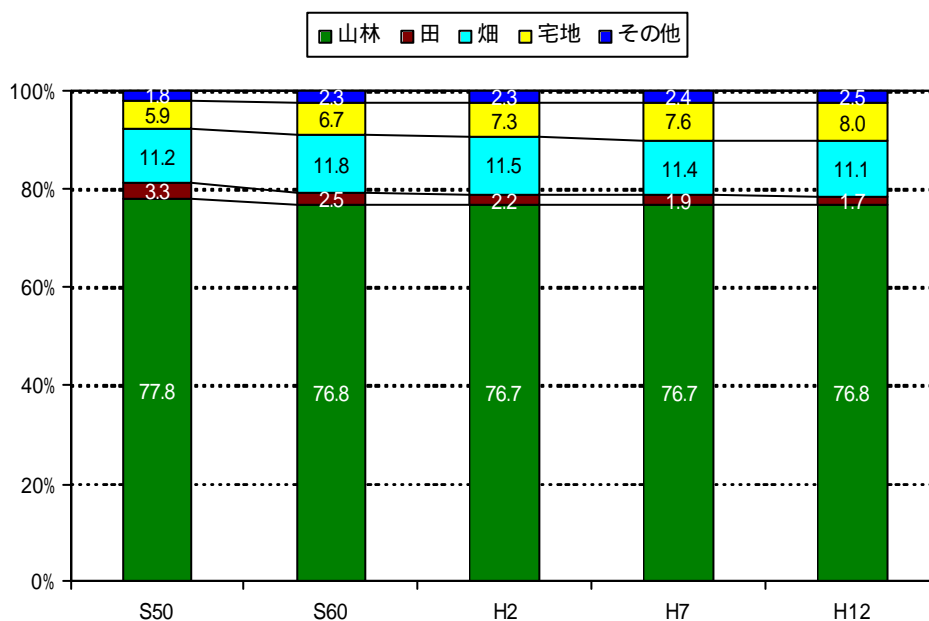


図 - 3.2 静岡市の土地利用別面積割合

3-3 産業・経済

安倍川流域における主要な生産物は、農作物としてみかん、茶、いちご、わさび等があげられ、工芸品としては家具、鏡台、漆器等があり、これらの農産物及び工芸品の生産額は全国的にも優位を占めている。また、鉱工業としては製紙、金属製品、紡績、缶詰等がある。

産業別就業人口の推移を全体でみると、第1次産業（茶、みかん）及び第2次産業は年々減少し、第3次産業が増加している傾向にあり、第3次産業は平成12年時点で全就業人口の約70%を占めている。



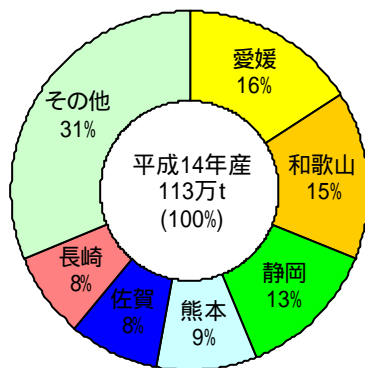
中流部斜面に広がる茶畑

安倍茶は室町時代には全国的に知られており、江戸時代には徳川将軍の御用茶となり茶の栽培も盛んに行われ重要な産業として発展している。

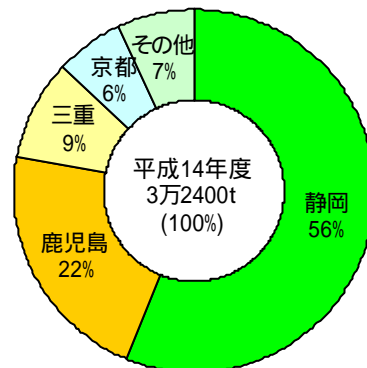


わさび栽培

今から約400年前、有東木で時生していた「わさび」を水を引いて栽培したのが始まりといわれている。



みかんの生産量



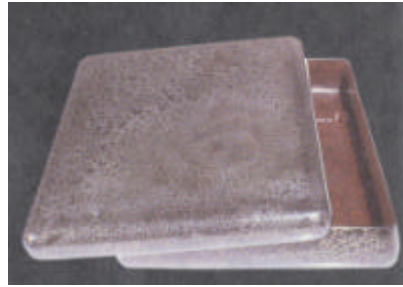
茶の生産量

出典：農林水産省HP 統計情報部公表資料
 (みかん：平成15年4月18日公表、
 茶：平成14年7月16日公表)



家具

静岡家具の源は漆器に始まり、江戸時代の浅間神社造営の際、全国から集まった宮大工・指物師によって培われた。(出典：静岡市市勢要覧)



駿河漆器

木地部門の指物の制作から現在の高級漆器へと発展し、その高度な技術・技法は市の伝統工芸を代表している。(出典：静岡市市勢要覧)



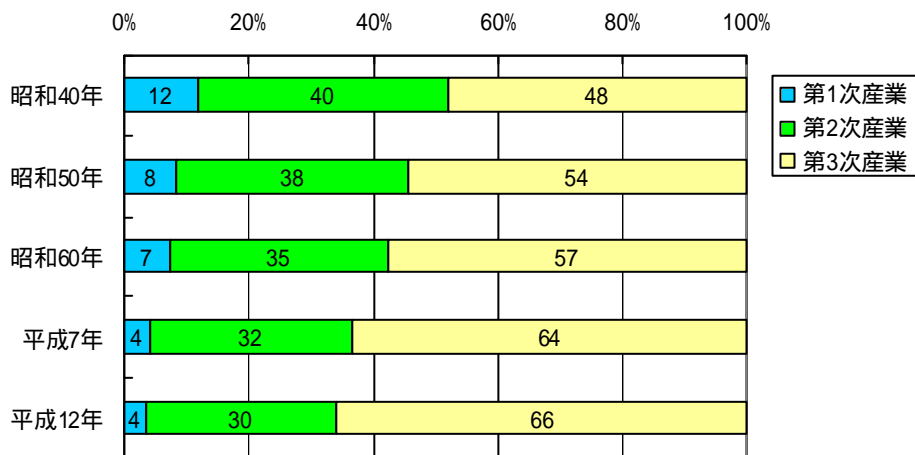
鏡台

ドレッサー・和家具の生産は全国一を誇っている。(出典：静岡市市勢要覧)

表 - 3.3 静岡市産業別就業人口 (単位：万人)

年度	一次産業			二次産業			三次産業		
	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計
昭和40年	1.9	1.5	3.3	6.9	4.5	11.4	9.1	4.6	13.6
昭和50年	1.6	1.1	2.8	7.7	4.8	12.5	12.4	5.7	18.1
昭和60年	1.5	1.0	2.5	7.5	4.5	12.1	13.5	6.3	19.7
平成7年	1.0	0.6	1.6	7.5	4.8	12.4	17.0	7.5	24.5
平成12年	0.8	0.5	1.3	6.8	4.4	11.2	16.9	7.6	24.4

出典：「静岡県統計年鑑 静岡県統計協会」
(産業別就業人口は静岡市と清水市の合計値)



出典：「静岡県統計年鑑 静岡県統計協会」
(産業別就業人口は静岡市と清水市の合計値)

図 - 3.4 静岡市の産業別の就業人口の割合

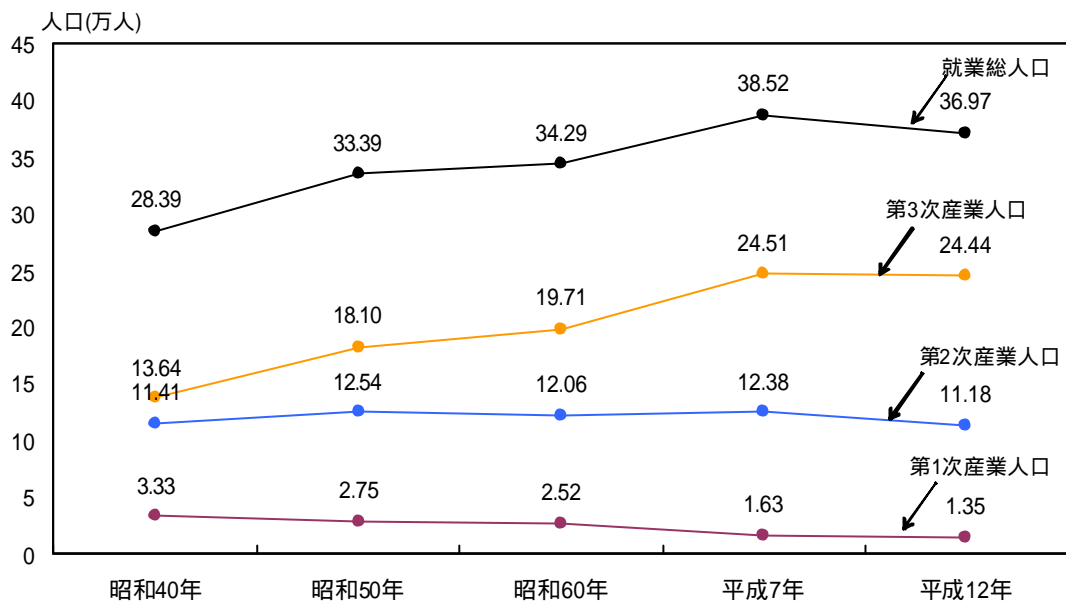


図 - 3.5 静岡市の産業別就業人口の変遷

一方、静岡市による耕地整理事業は早くに完了しており、区画整理事業としては藁科川中流部左岸の新聞ほたる地区(21ha)で県営畑地帯総合事業(担い手育成型)として行なわれている。

また、「静岡県農業農村整備みらいプラン：平成13年～22年度」の策定に伴い、農村整備事業の一環として、本川上流部の有東木地区、藁科川上流部の富沢地区で「ふるさと水と土保全事業」が行なわれている。

本川筋の有東木地区、俵沢地区、油山地区、及び藁科川筋の日向地区、大原地区の各地区では「集落排水事業」が行なわれている。

3-4 交通

安倍川流域では、上流部の梅ヶ島地域は古くから交易上山梨県側とのつながりが深く、主要交通路も甲州へ通ずるものが主であった。

これに比べ、大河内村を經由して静岡に至る道はひどく不完全なものであった。

「安倍街道」の改修前には、安倍川を利用した舟運により、静岡から牛妻まで運び、さらに、そこから中継の舟積みをして上流部まで荷物を運搬していた。

明治 10 年前後に安倍川通船が開かれ、明治 17 年に大河内渡本より安倍川に沿って道路が開通されるに至って、静岡市側との交易が主となった。

しかし、この路線も断片的で、明治 30 年近くまでは安倍川の川原道に頼っており、その通行の困難さは想像を絶するものであった。

「安倍街道」は大正 14 年に至って県道梅ヶ島静岡線、県道井川静岡線に認定され、以後、道路や橋梁の近代化が昭和初期に推進された。



図 - 3.6 駿府への街道
(出典：「東海道駿府城下町(上)」
静岡国道事務所)

また、大正5年には、主に材木の搬出することを目的として、静岡市井宮と牛妻間を結ぶ安倍鉄道が開設されたが、大正13年頃から不況色が強まり、昭和7年には営業を中止し廃線となった。その後、静岡鉄道による梅ヶ島温泉までのバスは昭和34年に運転開始された。

現在の主な道路交通網は、静岡市街地を横断する国道1号、静岡バイパス、東名高速道路や海岸沿いを走る国道150号等が東西に発達している。なお、現在、第二東名高速道路が建設中となっている。

鉄道については、静岡駅を中心にJR東海道本線及びJR東海道新幹線が静岡市街地を横断している。

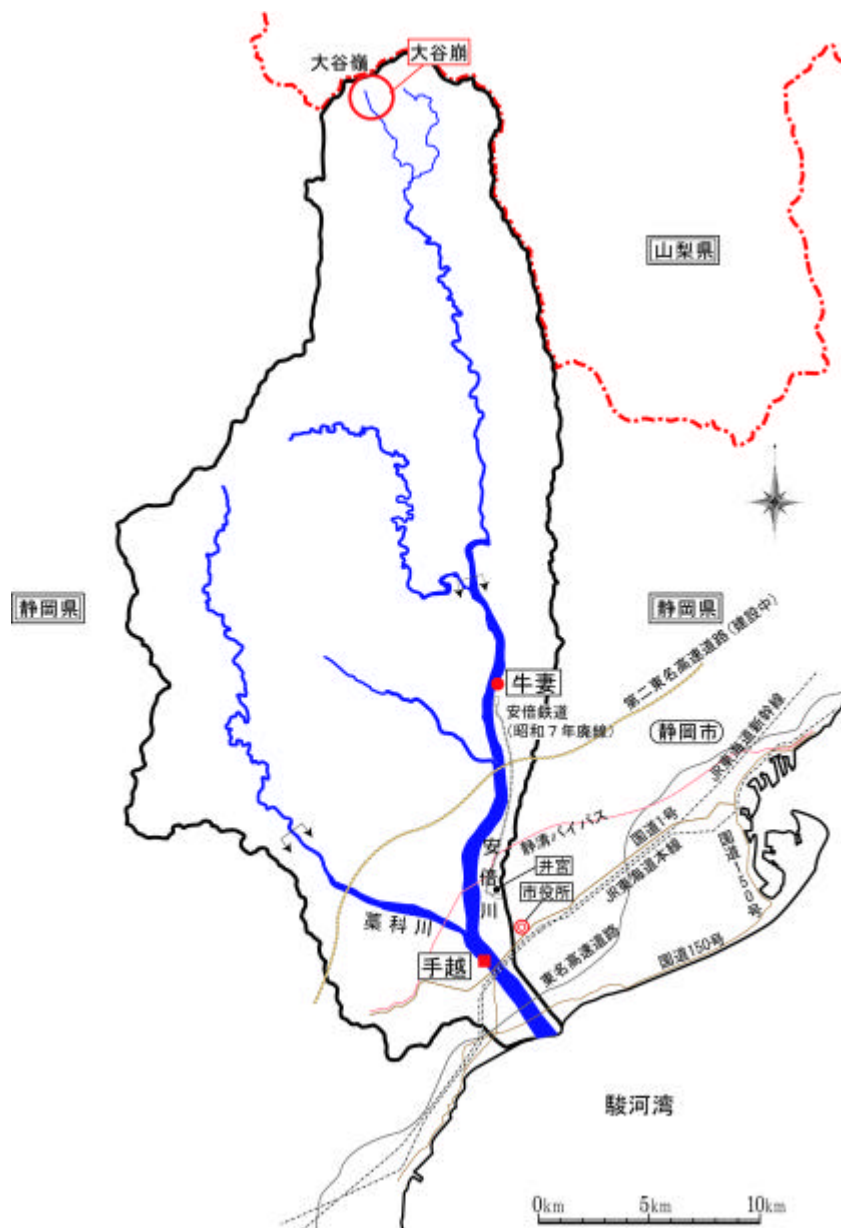


図 - 3.7 主要交通網図